

「廃棄物分別・処理戦略（仙台モデル）」の共有と活用について

廃棄物資源循環学会「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」

「廃棄物資源循環学会」は、適切な廃棄物処理や資源循環を目指す専門家の集団（産官学・市民連携）である。現在、その中の「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」より、3名が現地に入り、仙台市役所を拠点に、情報収集・支援を行っている。廃棄物の視点からも、これまでにない量と質であることから、仙台市をモデルとして、市関係者との協議と、専門家からの情報収集・意見を重ねながら、適切な対応を検討し、「廃棄物分別・処理戦略」のマニュアル化を進めている。このマニュアルは、環境省の震災廃棄物対策指針や水害廃棄物対策指針に沿いつつ、より現場で活用しやすいガイドに深化させることを意識している。本震災のダメージを受け、様々なフェーズにある地域が、よりスムーズに復興に向かうことも狙いとしている。一方、今回の震災の場合、地域により事情が大きく異なる可能性があるが、広く共有・活用して頂きながら深化させていければ幸いである。

なお、不眠不休の対応を進める中、本活動の趣旨を理解し、活動拠点及び協議の場を提供して頂いている仙台市の関係者には、深く感謝すると同時に、有効な協議の継続を改めてお願いする次第である。

【1】「廃棄物分別・処理戦略マニュアル」の概要

仙台市には、様々なタイプの被災地が存在するが、先進的に廃棄物処理の検討が進められている。その実際の動きをベースに、専門家の知見と協議を加え、右のようなわかりやすい廃棄物分別・処理戦略をマニュアル化している（4月1日に暫定版が完成予定）。

対策手順・フロー

被害レベル・種類の同定

各フローに
おける手順

分別リス
ト・留意点

【2】仙台市との協働に関する今後の予定

量的・質的な面から、これまでの考え方で対応できるか不明な廃棄物（群）もある。そこで、今後の処理に向けて、環境リスクの制御の観点を含めて、性状調査や燃焼実験、専門家派遣等を予定している。

【3】マニュアル（廃棄物分別・処理戦略）の他地域との共有・活用へ

マンパワー面でもコスト面でも、対応が容易でない自治体（地域）が多い中、先行事例の共有は、復旧・復興を大きく後押しする。特に分別品目と基準を共通化しておくことは、広域連携処理（例えば他都市の廃棄物を仙台市等が引き受けて処理するなど）や再資源化のためにも大きな意味を持つ。

例◆仙台市でも、3月15日開設の所と27日開設の所を比べると、大きく改善が見られる。

◆便乗して排出される廃棄物が多くみられる。復旧・復興経費を適正に運用し、国及び自治体の予算をより有効に執行するには、行政、市民、事業者が課題共通し、周知を含め対策を図る必要がある。

◆津波倒壊エリアの大量の廃棄物やヘドロは、既存の処理方法での対応が可能か不明である。それらの対応方針や処理ルートを共有し、制度上の扱いや処理コストについて、国等との調整が必要である。

